

市の収入支出をチェック 平成26年度決算を認定

9月29日に決算審査特別委員会を設置し、一般会計などの決算議案を詳細に審査した後、10月15日の本会議で認定しました。

一般会計の実質収支は約6億3千万円の黒字で、12ある特別会計は国民健康保険事業など8会計が実質収支で黒字となりました。企業会計は水道事業が10年連続黒字、大蔵海岸整備事業が12年連続黒字となりました。

一般会計・特別会計決算

	歳入	歳出	実質収支※
一般会計	988億4593万円	976億 376万円	6億3315万円
特別会計	739億1557万円	656億 458万円	82億7307万円

※歳入歳出の差額から翌年度に繰り越す財源を差し引いたもの。

企業会計決算

	事業収益	事業費用	純利益
水道事業	68億4306万円	60億1735万円	7億6161万円
大蔵海岸整備事業	2億 640万円	1億 975万円	9664万円

各会派からの代表質問

会派を代表して5名の議員が決算について質問しました。

真誠会

山崎 雄史 議員

平成26年度決算全般

問 平成26年度の一般会計決算は、実質収支は黒字であったが単年度収支では3年ぶりに赤字であった。今後の財政運営と歳入確保の方策について聞く。

答 人口減少社会といわれる中、本市では、2年前から人口が増加傾向にあり、商業地や住宅地の地価についても下落が止まり上昇に転じている。人口が増加し人が集まれば、まちに活気が生まれ、まちの将来にも大きな意味を持つ。また、市の歳入の根幹となる税収確保の観点からも人口の増加は重要であるため、



選ばれるまち明石の実現へ

これから市内外を問わず、住みたい住み続けたいまち明石、選ばれるまち明石と思われる施策を展開する必要があります。さらに、子育てや老後の不安に対しても、しっかりと配慮し、今後、市として何ができるのか議論していく。

その他の項目

- 庁舎建設基金
- 教育費
- 観光振興対策事業
- 明石市葬祭事業特別会計
- 明石市大蔵海岸整備事業会計

公明党

尾倉 あき子 議員

基金残高

問 平成26年度からの10年間を計画期間とする財政健全化推進計画では、市の貯金である財政基金など3つの基金を35年度末で70億円確保することを目標としているが、今後の見通しについて聞く。



健全な財政運営を

答 26年度末の基金残高は75億円で、25年度末に比べ1億円増加している。また、26年度の決算剰余金の積み立てにより27年度末では78億円に増え、同計画の63億円より15億円改善する。しかし、社会保障関係経費の増加などにより、何も対策をしなければ収支不足の状況が続くと見込まれており、限りのある財源の中で施策や事業の優先度を見極めるとともに、市役所内部の取り組みや公有財産の有効活用などを継続して進めていきたい。これらにより10年後の基金残高の確保と市民サービスの向上が両立する財政運営に努めていく。

その他の項目

- 決算状況
- 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金
- 生活困窮者自立支援事業

未来創造明石

中西 礼皇 議員

コミュニティ施策

問 市は、コミュニティ創造協会への補助金および委託金として約3千万円を支出するとともに、職員も派遣している。その効果と協会の役割について聞く。



協働のまちづくりを推進

変わるとともに、広報紙の発行やまちづくり計画の作成が進むなど、確実に効果が表れてきていると認識している。今後、校区まちづくり組織がさらに発展していくためには、専門の知識を持ったスタッフにより中間支援を行うことが不可欠であり、協会と市が支援していくことは大切であると考えている。

その他の項目

- 観光施策
- 市のPR
- こども医療費助成

日本共産党

辻本 達也 議員

こども医療費助成事業

問 平成25年7月から中学生までの医療費を所得制限を設けずに無料にした。制度拡充にあたり、財政への負担やコンビニ受診などの懸念の声があったが、実態について聞く。



医療費無料で安心

制度拡充前の24年度は4億8300万円だったが、拡充後の25年度は7億2700万円で約50%増加しており、26年度は7億6400万円、25年度からは約5%増加となっている。コンビニ受診については、夜間休日応急診療所の受診者数が横ばいで、医師会からの意見もないことから、医療現場での混乱は生じていないと考えている。今後も引き続き、適正な受診を促す啓発に取り組んでいく。

その他の項目

- 秘書事務事業
- 和坂公園整備事業
- 火葬場運営事業
- 中学校給食導入事業
- 海岸利用マナーアップ推進事業
- 土地改良事業におけるいなみ野ため池ミュージアム運営協議会への負担金

民主連合

尾仲 利治 議員

学校エレベーター設置状況

問 平成26年度の学校エレベーター設置の経緯と今後の課題について、市の見解を聞く。



エレベーターは順次設置中

答 学校エレベーターは、必要とする児童生徒が在籍、入学する学校に対し優先的に設置している。26年度は、野々池中学校と明石商業高校に整備し、これまでに高校1校、中学校4校、小学校8校、養護学校1校への設置を完了している。なお、27年度は、衣川中学校、望海中学校のほか、改築工事中の錦城中学校への設置を予定している。

その他の項目

- 決算における財政指標
- 保育事業
- 農業に係る各種事業
- 漁業に係る各種事業